

自己の生き方についての考えを深め、
自己実現を図ろうとする態度を育む指導の工夫
～学級活動(3)におけるキャリアパスポートを活用した学習を通して～

糸満市立光洋小学校教諭 賀数武一朗

I テーマ設定の理由

情報化やグローバル化の進展、人工知能（AI）の飛躍的な進化に伴い、社会の状況がめまぐるしく変化する中、学校教育には、子供たちが未来の社会を切り拓いていくために必要な資質・能力を育成することが求められている。そのような状況の下、平成29年に告示された小学校学習指導要領では、学級活動の内容に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」が新設され、特別活動を「要」としてキャリア教育を適切に行い、現在や将来に希望や目標を持って生きる意欲や社会参画意識、主体的な学習態度などを育成することが示された。

現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成について、平成29年改訂学習指導要領解説特別活動編（以下「解説特別活動編」と表す）では、「学級や学校での生活づくりに児童が主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日々の生活をよりよくしようとする」と述べられている。その指導に当たっては、学校・家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだ事を振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと、その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用することが求められている。

キャリア教育について、これまでの実践を振り返ると、学級活動、学校行事、「総合的な学習の時間」などを通してその指導の充実に努めてきた。しかし、将来の夢を描くことばかりに力点を置き、キャリア教育を体系的に行ってこなかったことや、学習内容を蓄積した資料の効果的な活用が不十分であったことなどから、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を十分に育成することができなかった。

そこで、本研究では、学級活動の(3)において、級友と学び合った学習の過程を記録したり、児童一人一人が活動を通して自己判断・自己決定したことを振り返ったりすることができるワークシート（キャリアパスポート）を作成し、ポートフォリオとして活用したい。児童がキャリアパスポートに学習内容を記録し、自己や級友のよい点や改善点を見い出したり、新たな課題を発見させたりすれば、児童は自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度が育成されるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

学級活動(3)の指導において、ワークシート（キャリアパスポート）を作成し、ポートフォリオとして児童が活動を記録し、自身の活動を振り返ったり、蓄積した情報をもとに児童間、児童・教師間で交流したりすれば、学級や学校での生活づくりについて児童一人一人が主体的に判断することができるようになり、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度が育まれるであろう。

2 検証計画

本検証では、児童が主体的に判断し、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとするようになったかについて、アンケートやキャリアパスポートの分析により検証する。

〈検証計画〉

検証授業の対象：糸満市立光洋小学校 6年1組〔男子19名、女子19名、計38名〕		主な検証方法
1 事前調査	○自己有用感、「一人一人のキャリア形成と自己実現」に関するアンケート実施 【6月5日(火)5校時】	・アンケートの分析
2 検証授業	日程 「内容項目」	検証の観点
	【7/9(月)2校時】 特別活動 学級活動 「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」	①キャリアパスポートに活動を記録できたか。 ②具体的な目標を抱き、主体的に交流できたか。 ③学んだことや気づいたことを、キャリアパスポートへ書き、学習を振り返ることができたか。
	【7/9(月)下校指導後～】	①キャリアパスポートを用いた個別指導により、自己実現に向けて、新たな目標を持つことができたか。
	【7/12(木)5校時】 本検証：特別活動 「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」	①キャリアパスポートの記述をもとに、これまでの活動を振り返ることができたか。 ②キャリアパスポートに活動を記録できたか。 ③具体的な目標を抱き、主体的に交流できたか。 ④学んだことや気づいたことを、キャリアパスポートへ書き、学習を振り返ることができたか。
	【7/12(木)下校指導後～】	①キャリアパスポートを用いた個別指導により、自己実現に向けて、新たな目標を持つことができたか。
3 事後調査	○ワークシート型のポートフォリオ（キャリアパスポート）（7月） ○自己有用感、「一人一人のキャリア形成と自己実現」に関する変化に関する調査（7,9月）	・アンケートの分析 ・キャリアパスポートの分析
4 まとめ	○自己有用感、「一人一人のキャリア形成と自己実現」に関するアンケート実施 【7月13日(金)1校時】	・比較分析・結果のまとめ

Ⅲ 研究内容

1 自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度の育成について

(1) キャリア教育の「要」としての特別活動

キャリア教育の課題について、平成29年告示小学校学習指導要領解説総則編（以下「解説総則編」と表す）では、「特別活動において進路に関連する内容が存在しない小学校においては、体系的に行われてこなかったという課題もある。」と述べられ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につながる指導が軽視されていたのではないかとといった指摘があることを明らかにしている。

このことから、解説総則編、第4の1の(3)では、「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」と述べられ、特別活動をキャリア教育の要とし、児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくよう求めている。

表1 学級活動の内容

キャリア教育の要として位置づけられたことを受け、特別活動では、学級活動の内容に「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」が新設された（表1）。学級活動の(1)(2)(3)の内容を関連させ、自己実現へ向けて児童の自発的、自治的活動を展開することや、一人一人の意思決定を大切にしている活動が重視されている。

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
ア 学級や学校における生活
イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
ウ 学校における多様な集団の生活の向上
(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ア 基本的な生活習慣の形成
イ よりよい人間関係の形成
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
エ 食育の観点で踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成
イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解
ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

(2) 自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度とは

人は、実社会において、何らかの目的を達成するため、また、自己実現を図るために、様々な集団に所属したり、新たな集団を形成したりする。したがって、多様な集団の中でよりよい人間関係を形成しようとしたら、

表2 特別活動において養う自主的、実践的態度

○多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったりして、よりよい人間関係を築こうとする態度
○集団や社会の形成者として、多様な他者と協働して、集団や生活上の諸問題を解決しよりよい生活をつくろうとする態度
○日常生活や自己の在り方を主体的に改善しようとしたら、将来を思い描き、自分にふさわしい生き方や職業を主体的に考え、選択しようとしたらする態度

集団をよりよいものにしようとしたり、自己実現を図ろうとしたりすることは、まさに自分自身の在り方や生き方と深く関わるものである。特別活動では、集団活動の意義や役割を理解し、多様な他者と関わる上で、様々な活動に自主的、実践的に関わろうとする態度を養う必要がある。具体的には、例えば表2のような態度を養うことが考えられる(解説特別活動編)。

(3) 学級活動(3)の内容

学級活動(3)の内容について、解説特別活動編をもとに表にすると表3の通りである。また、このような活動を通して育みたい資質・能力について表4の通り例示されている。

表3 学級活動(3)の内容

ア	現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとすることともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとする。
イ	社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員としての役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること。
ウ	主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 学ぶことの意義や現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること。

表4 学級活動(3)を通して育みたい資質・能力

○働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。
○自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。
○現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。

(4) 学級活動(3)の学習過程

解説特別活動編では、「学級活動において育成を目指す資質・能力は、問題の発見・確認・解決方法等の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りといった基本的な学習過程の中で育まれる」として、下記の通り学習過程が例示された。

図1は、学級活動(2)(3)の学習過程である。

学習活動(3)の学習過程は、基本的には「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」と同じであり、一人一人の主体的な意志決定に基づく実践にまでつなげることをねらいとしている。

指導事項としては、児童自身が自己の成長や変容を把握し、実践を定期的に振り返

って次の課題解決へつなげるとともに、主体的な学びの実現や今後の生活改善に生かしたり、将来の生き方を考えたりする活動が求められている。その際、解説特別活動編では「活動を行うに当たっては、振り返って気付いたことや考えたことなどを、児童が記述して蓄積する、いわゆるポートフォリオ的な教材のようなものを活用する」と述べられており、自身の活動を振り返ったり、蓄積した情報を振り返ることのできるポートフォリオの活用が重視されている。

2 ワークシート型のポートフォリオ(キャリアパスポート)の活用について

(1) 学習や生活の見通しを立て、振り返る教材の活用

「学習や生活の見通しを立て、振り返る教材」の活用について、学習指導要領第6章の第2[学級活動]の3の(2)では「2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を

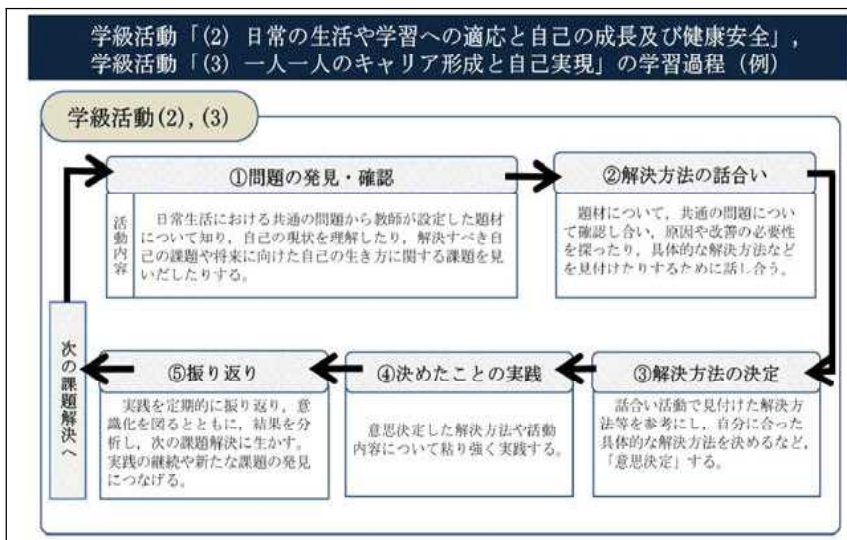


図1 学級活動(2)、(3)の学習過程例

考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」と示している。「児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用する」とは、振り返って気付いた事や考えたことなどを児童が記述する、いわゆる「ポートフォリオ的な教材のようなもの」を活用することを指している。こうした教材を活用した活動を行うことは、表5のような3つの意義がある（解説特別活動編）。

ポートフォリオに蓄積された子供たちの活動記録や気付き、感想は、教師が児童を見取るための重要な資料となり、ねらいと活動を照らし合わせて評価しやすくなる。また、子供たちも自身が成長したことを実感し、学びを促す絶好の資料となり、自身の成長の過程を振り返ることができるようになる。さらに、教師も学級や学年、校種を越えた指導を行いやすくなる。

このような機能を持つ「ポートフォリオ的な教材のようなもの」を「ワークシート型キャリアパスポート」として本実践に取り入れることで、「自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度」を育みたい。

表5 ポートフォリオ的な教材活用の意義

- ① 学級活動においてまとめたり、つなぎ合わせたりする活動を行うことにより、各教科等の学びと特別活動における学びが往還し、教科等の枠を超えて、特別活動での実践や生活、学習などが自己の将来や社会づくりにつながっていくことが期待される。
- ② ポートフォリオ的な教材等を活用して、小学校、中学校、高等学校の各段階における学習や生活を振り返って蓄積していくことにより、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を充実させることになると考えられる。中学校区内の小学校、中学校において、連続した取組が可能となるよう教材等の工夫や活用方法を共有したりすることは大変有効である。
- ③ 児童は、年間を通して、あるいは入学してから現在に至るまで、どのように成長してきたかを把握することができる。特に、気付いたことや考えたことを書き留めるだけでなく、それを基に、教師との対話をしたり、児童同士の話し合いを行ったりすることを通して、自分自身のよき、興味・関心など、多面的・多角的に自己理解を深めることになる。また、教師にとっては、一人一人の児童の様々な面に気付き、児童理解を深めていくことになる。

(2) ワークシート型キャリアパスポートの基本型と、授業展開におけるの活用例

本研究では、図2の通り「ワークシート型キャリアパスポート」を作成した。

図2 「ワークシート型キャリアパスポート」の基本型

本研究において作成したキャリアパスポートは、左上に日付とタイトルを書く欄を設定し、後日振り返りが必要になったときに検索しやすくした。学習内容については、児童が慣れ親しんだ算数科のノートづくりに似せ、本時のめあて、自力思考、集団思考、高まった考え、まとめを記録できるようにした。ここに自己決定、集団決定の要素を含めた。評価については、本時の内容に関する資質・能力を評価できる項目を設定するとともに、「感想・フリーコーナー」には、友達や教師、家族などからのアドバイスや励ましを記入できるようにし、事後活動との連携を図った。さらに、授業で立てた目標について達成状況を反省するコーナーを設定し、目的意識の継続を図った。

(3) ワークシート型キャリアパスポートの活用と連動した板書例

図3は、本実践における板書の型である。児童が授業に主体的に参加することができるよう、「問

い」を生起する発問の工夫を行い、児童からつぶやきや気付きの言葉を引き出す。この言葉を「吹き出し法」を用いて板書に視覚化する。本実践の板書では、キャリアパスポートと同様に、本時のめあて、自力思考、集団思考、高まった考え、まとめと展開・記述し、児童の思考を支援できるようにした。

①期日・氏名・題材名 前時までの掘り 起こしを記入する	③集団決定 I 解決方法に対する 実践方法の決定	⑤自己決定 実践方法に対する 自己の意志決定
②集団思考 吹き出し法を用いて 発散・収束	④まとめ 学習内容の学び直し	⑥振り返り 教師からの励まし

図3 キャリアパスポートの活用と連動した板書の型

IV 指導の実際

- 1 検証授業Ⅰ（特別活動）・事後指導 平成30年7月9日（月）2校時～
検証授業Ⅱ（特別活動）・事後指導 平成30年7月12日（木）5校時～
- 2 題材名 検証授業Ⅰ「輝く未来へ向かってⅠ」（ウ主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用）
検証授業Ⅱ「輝く未来に向かってⅡ」（ア現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成）

3 題材設定の理由

(1) 教材観

学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」は、個々の児童の将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践にまでつなげることをねらいとしている。

夢や希望は、明日を生きていく原動力となるものである。児童が現在や将来に夢や希望を抱きその実現を目指して物事に取り組むことは、「今の自分」に価値や意味を見いだすことにつながる。児童が将来直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会的・職業的に自立していくためには、児童一人一人が、学ぶこと、働くこと、そして生きることについて考え、それらの結び付きを理解していくことで、多様な他者と協働しながら、自分なりの人生をつくっていく力を育むことが必要である。

また、学級活動(3)において育成したい資質・能力として、「現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。」が例示されている。指導に当たっては、活動の過程を記述し振り返ることができる教材等の作成とその活用を通して、児童が自己の成長や変容を把握し、主体的な学びの実現や今後の生活の改善に生かしたり、将来の生き方を考えたりする活動が求められている。

(2) 児童観

本校の第6学年1組の児童は、第5学年においてセカンドスクール、職業インタビュー等の体験を経験している。また、事前アンケートでは、「将来の夢は何ですか」の問いに対し、92%の児童が記入することができた。

表6は、国立教育施策研究所「キャリア教育」資料集、平成28年度版に記載されている「キャリア教育アンケート（高学年用）一例」（12項目）に、本研究の検証内容8項目を追加して行った事前アンケートである。本アンケートを事前に実施したところ、前述の12項目中10項目が4点満点中3点以上を記録した。このことは、キャリア発達にかかわる諸能力として「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つから成る「基礎的・汎用的能力」の能力が、一定程度身に付けていることを示すと考える。

しかし、その中の「課題対応能力」をみる項目に、3点に満たなかった項目が2項目あったこと

から、「仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することのできる力」（情報の理解・選択・処理等計画立案、実行力、評価・改善）を育むことに課題があると考える。

表6 事前アンケートの項目と集計結果（4点満点「対象児童36名」）

人間関係形成 社会形成能力	①	学校は楽しいですか。	3.38
	②	自分には、よいところがあると思いますか。	3.30
	③	友だちや家の人の意見を聞くと、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。	3.11
	④	相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	3.52
	⑤	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	3.61
自己理解 自己管理能力	⑥	自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。	3.16
	⑦	気持ちが沈んでいるときや、あまりやる気が起きない物事に対しても、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。	3.13
	⑧	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	3.02
課題対応能力	⑨	学校や学級のきまりを守っていますか。	3.22
	⑩	分からないことやもっと知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。	2.72
	⑪	何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。	3.38
	⑫	何かをするとき、見直しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。	2.92
キャリアプラン ニング能力	⑬	学ぶことや働くことの意味について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。	3.27
	⑭	自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えられていますか。	3.00
	⑮	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。	3.13
	⑯	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	3.66
4:当てはまる 3:どちらかといえば当てはまる 2:どちらかといえば当てはまらない 1:当てはまらない	⑰	特別活動の授業において学んだことを、記録したり、振り返ったりしていますか。	2.62
	⑱	特別活動の授業において学んだことを、友だち、先生、家族と話し合っていますか。	2.65
	⑲	学級や学校でのよりよい生活づくりについて、主体的に判断することができますか。	2.88
	⑳	現在や将来に希望や目標を持って、生活することができていますか。	3.27

(3) 指導観

対象学級の課題を踏まえ、検証授業Ⅰを設定し「課題対応能力（情報の理解・選択・処理等、計画立案、実行力、評価・改善）」について取り上げ、自分自身の夢や将来に向けてより具体的な計画を立て、自己実現に向けて実行しようとする態度を育むこととした。

その上で、検証授業（本時）Ⅱを行い、今の生活は未来につながっており、自分自身の将来の夢を実現するためには、普段の学校生活をよりよくしようとするのが大切であることを押さえる。その際、事前アンケートにおいて「自分にはよいところがある」、「仲間と協力して行動しようとする」、「人の役に立つ人間になりたい」の項目について肯定的解答の割合が高かったことから、このことを紹介し、自分や互いのよさや可能性を生かして未来社会を切り開いて行くよう励ましたい。

また、小学校学指導要領（平成29年告示）解説特別活動編には、各活動・学校行事の目標及び内容として「活動の過程を記録し振り返ることのできる教材等の作成とその活用を通して、児童自身が自己の成長や変容を把握し、主体的な学びの実現や今後の生活の改善に生かしたり、将来の生き方を考えたりする活動が求められる」と述べられている。そこで、ワークシート型のポートフォリオ（キャリアパスポート）に児童が活動を記録させ、自身の活動を振り返ることができるようにしたい。キャリアパスポートは、学びの媒体として学習活動後も活用し、児童間、児童・教師間、そして、家庭においても活用され、学びが広がるようにしたい。

(4) 検証授業Ⅰの指導

① 検証授業Ⅰの展開 平成30年7月9日（月）2校時～

題材	輝く未来に向かってⅠ
内容	ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 学ぶことの意味や現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、自主的に学習する場としての学校図書館等を活用したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること。
ねらい	学ぶことの意味を考えるを通して、自分自身の夢や将来に向けてより具体的な計画を立て、自己実現に向け実行しようとする態度を育む。

	学習活動 （「先：主な発問例」と「児：予想される児童の反応例」）	指導上の留意点 ■ 授業仮説の検証
導入 （つかむ）	1. 本時の学習課題を持つ (1) 将来の夢や目標を出し合う 先：大人になったら、どんな仕事に就きたいですか。 児：パイロットになりたい・・・ (2) 夢を叶える方法を考え、キャリアパスポート（以下「CP」と表す）へ記入する 先：夢はどうしたら叶えることができそうかな。今思いつくことをCPに書いて下さい。	・夢を描くことが難しい児童に対しては、25才の理想の自分をイメージするよう指示する。 ・机間指導の際に、具体的な方法を書くことができているか評価する。

12分	<p>(3) 本時の問いに気付く 先：考えたことを発表して下さい。 児：努力する… 児：がんばる… 先：努力することやがんばることは大切ですが、何をどうがんばったらよいかははっきりしませんね。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">主発問：夢を叶える具体的方法を考えよう</p> <p>(4) 本時の問いを持つ 先：夢を叶えるためにはどうすればよいか具体的方法を考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この段階では、具体的ではない考えを取り上げる。 ・児童が主発問を捉えている間に、めあてを板書しておく。児童の思考が落ち着いたら、めあてをCPに書くよう指示する。
展開（さぐる・見付ける・意志決定する） 28分	<p>3. 夢を叶える方法について考えを深める</p> <p>(1) 夢を叶える具体的方法をCPに記入する 先：夢を叶える方法を具体的に考えてCPに書きましょう。</p> <p>(2) 夢を叶える方法を出し合う 先：考えた方法を発表して下さい。 児：チャレンジする。 児：まずやってみる。 先：何をやるのかな（問い返し）。 児：あきらめないでがんばる。 先：その方法をもっと具体的に考えて下さい。 児：将来の仕事についてイメージする。 児：将来の仕事について調べる。</p> <p>(3) 出し合った方法や考えを収束させる。CPへ記入する 先：この中で特に大切だと思うものはどれだと思いますか。 発表して下さい。 児：なりたい仕事についてもっと調べる。</p> <p>(4) 一番大切なものに絞り、その理由を考える 先：一番大切なことは“調べる”ことなんだね。なぜですか。 児：なりたい夢についてもっと詳しく知ること、夢を叶えるためにどうすればよいかわかるし、方法がわかれば具体的に行動できるようになるから。 先：これがポイントだね。</p> <p>4. 学習のまとめをする 先：輝く未来に向かって大切なことは何か。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> まとめ 1、自分の夢や理想の姿を具体的にイメージする。 2、あきらめないで、チャレンジし続ける。 3、情報を集めるために調べる。 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的方法をできるだけたくさん書くよう指示する。 ・考えた方法を学級全体で発散させる。「吹き出し法」によって板書に可視化する。 ・できるだけ多くのアイデアを出すようにする。 ・努力するなどの抽象的な内容から、具体的な内容へと導く（問い返し）。 ・考えを収束させる発問を行い、内容を整理して、【意志決定】へ向かっていけるようにする。 ・考えがまとまらない児童には、黒板に書かれたアイデアをヒントにするとよいことを助言する。 ・なぜその方法を考えたのか理由を交流させ、考えを深めさせる。 ・学習活動をまとめ、左記の1～3の夢を叶える方法を押さえる。
終末（意欲を持つ） 5分	<p>5. 私がこれからがんばることを考え、交流し合う</p> <p>(1) これからがんばることを考える 先：今日のめあては「夢を叶える具体的な方法を考えよう」でした。先ほどこのクラスでは、未来に向かって大切にすることを3つ決めましたね。では、あなた自身はこれからどうするのかな。CPへ記入して下さい。</p> <p>(2) 設定した目標を交流し合う</p> <p>6. 学習を振り返る</p> <p>7. 教師からの励まし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめを押さえながら、個人目標を設定するよう指示する。 ・交流を通して目標を新たに加えたり、修正したりする。 ・PCへ自己評価を記入し、感想を書く。 ・実践意欲を高めることができるようにする。

② 検証授業 I の結果と考察

検証授業 I においては、課題対応能力（情報の理解・選択・処理等）の向上を図るため、学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」、内容「主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」について取り上げた。そのねらいは、「学ぶことの意義を考えることを通して、将来に向けてより自分から具体的に行動しようとする態度を身に付けることができるようにする。」である。結果、事後アンケートでは、項目⑩「分からないことやもっと知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問したりしていますか」が2.72ポイントから3.16ポイントへ、⑫「何かをするとき、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか」が2.97ポイントから3.18ポイントへと上昇し、児童に、課題対応能力を育むことができたと考えられる。

また、導入において自身の夢と、そのために何をしているのかを記入させ、「どうしたら自分

の夢を叶えることができるか」について考え、ペアで話し合わせた。そして、学級全体で自身の夢を叶えるためには何が大切かを話し合わせ、「自分の夢の姿を描く」、「情報を集めるために動く」、「自分のために勉強する」と授業をまとめ、「もっと詳しく調べることが大切」という声を引き出した。

更に、今日から私にできる実践目標について具体的に記述する活動を行ったところ、更にほとんどの児童が「描きたいことがのっている本などを引用するために図書館へ行く」などの具体的な内容を考え、キャリアパスポートに記入した(図4)。

図5は、検証授業Ⅰの学習を振り返り、4点満点で自己評価した学級平均値の資料である。自己評価項目③「具体的に自分の目標を立てることができた」が3.72ポイント、④「今日から自分で調べたり、質問したいと思う」は3.51ポイントと、高い数値を示した。このことから、自己実現を図るため、将来に向けて自分から具体的に行動しようとする態度を育むことができたと考える。

(4) 検証授業Ⅰ後の事後指導

検証授業Ⅰの後の事後指導では、キャリアパスポートを用いた交流の場を設け、自己の夢に向かって具体的に調べる方法などを伝え合った。図6は、放課後や家庭で交流した内容を、持ち帰ったキャリアパスポートに記入した内容の一部である。キャリアパスポートを家庭に持ち帰り、家族に学習内容を話すよう指示したところ、母から子へと、実体験を踏まえた具体的なアドバイスの様子が記述されていた。児童も自己の夢について具体的に調べ、仕事の内容や必要な資格など、分析している様子が記されていた。キャリアパスポートを媒体とした活動を通して、児童自ら家族や習い事先の先生などから主体的に情報を得る事へと繋がり、将来の夢へ向かって自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問するなどの行動へ移すようになった。

アンケートでは、項目⑩「自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問したりしていますか」が、2.72ポイントから3.16ポイントへと上昇している。このことから自己実現を図ろうとする態度を育むことができたと考える。

(5) 検証授業Ⅱの指導

① 検証授業Ⅱの展開 平成30年7月12日(木) 5校時～

題材	輝く未来に向かって II
内容	ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常生活をよりよくしようとする事。
ねらい	現在や将来のつながりに目標を持って、自己を生かそうとするとともに、私にできることを具体的に考えることができる。

図4 具体的取り組み内容の記述

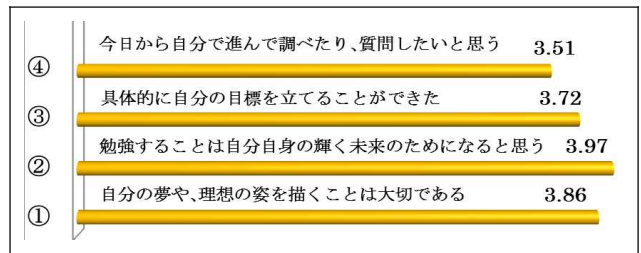



図5 検証授業Ⅰの自己評価の平均数値(4点満点)

図6 家庭でのキャリアパスポートの交流

	学習活動と ○指導上の留意点 (「先:主な発問例」と「児:予想される児童の反応例」)	■授業仮説の検証
導入 (つかむ) 9分	<p>1. 本時の学習課題を持つ (1)めあてを提示する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> めあて: 学校生活と将来の夢について考えよう。 </div> <p>(2)学校のために実践してきたことを想起する 先:これまでにみなさんは学校のためにしてきたことがたくさんあります。CPへ記入して下さい。 先:発表しましょう。 児:委員会活動、学校行事、あいさつ、掃除…</p> <p>(3)自分の将来の夢について想起する 先:あなたの夢と、今どようにながらっているかをCPに書いて下さい。 先:書いたことを、隣の友達と伝え合ってください。</p> <p>(4)本時の問いを持つ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 主発問 先:みなさんは成長するために学校に通っていますね。学校生活で、今ががんばっていることは、みなさんの夢を叶えることにつながると思っていますか。 </div> <p>児:つながると思う。 児:つながらないと思う。 児:よく分からない。 先:つながるか、つながらないのか話し合ってみよう。</p>	 <p>写真1 吹き出し法による発散</p> <p>■前時に使用したキャリアパスポート「以下(CP)と表す」を用いたりしながら交流することができる。</p>  <p>写真2 友達と伝え合う様子</p>
展開 (さぐる・見付ける・意志決定する) 26分	<p>2. 将来の夢と学校生活をよりよくすることが繋がっているか判断する</p> <p>(1)自分の意見をもつ 先:学校生活で今ががんばっていることは、自分の夢を叶えることに繋がっていると思いますか。はいか、いいえで答えて下さい。そしてなぜそう思うのか具体的にCPへ書いて下さい。</p> <p>(2)出合った内容を絞り込む 先:最初に「つながらない」と答えた人に質問です。なぜそう思ったのですか。 児:体育委員会だけど、汗かくのいやだな。 児:毎朝花に水をかけているけど、医者とは関係ないよ。 先:次に「つながる」と考えた人に質問です。なぜそう思ったのですか。 児:委員会活動で仕事をするのは、会社で働いたときに役に立つと思うからです。好きな仕事だったらなんぎなこともがんばれるし、汗をかくことも気持ちいいと思うよ。 児:毎日コツコツがんばって、決まったことをしっかりできる人が立派な人になると思うよ。そういう人が夢を叶えると思う。 先:「つながる」という意見の方が多くいそうですね。では夢を叶えたすごい人が何といっているのか知りたくありませんか。</p> <p>(3)夢を叶えた人の考えから内容を押さえる 先:サッカーワールドカップで活躍した、本田選手や長谷部選手の考えを紹介します… 先:毎日コツコツがんばっている人や、決まったことをしっかりできる人が夢を叶えるんだね。 先:私たちが暮らしている世の中には、警察官や病院の先生などが役割を分担し合い助け合いながら暮らしています。学校でも、委員会活動や当番活動など、一人一人が役割を果たしながら生活しています。だから学校は小さな社会といえることができます。社会で生きていくために、学校で生き方を学んでいます。学校生活と社会はつながっています。学校生活をよりよくできる人は、社会でもよりよく生きていくことができますと思います。</p> <p>3. 学習のまとめをする (1)学習のまとめをする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> まとめ1、学校生活をよりよくすることは私の夢と繋がっている。 2、だから夢を叶えるために学校生活を大切にしよう。 </div> <p>(2)夢を叶える人になるために、私たちにできることを決める 先:先ほどの話し合いから、夢を叶える人になるには、普段の学校生活をよりよくできる人になることが大切だと分かりましたね。では、みんなで学校生活をよりよくする何かに取り組んでみませんか。取り組みたい内容を考えて、発表して下さい。 児:委員会活動、ゴミ拾い、学級の係活動や当番活動、1年生のお世話、朝のあいさつ運動、プール掃除、修学旅行… 先:この中からひとつ、みんなで協力してできることを決めよう。</p>	 <p>写真3 CPへの記入</p> <p>・「つながらない」という考えから先に発言させる。「つながる」という考えを後から発言させることで「つながらない」という考えを「つながる」という考えに収束させる。</p>  <p>写真4 AB2択による合意形成</p> <p>・本田選手や長谷部選手の「あたりまえのことや目の前にあることをコツコツがんばってきた」という趣旨の手記を紹介し、「つながる」という考えに結論づける。</p>  <p>写真5 夢を叶えた人の事例の紹介</p>  <p>写真6 解決方法に対する実践内容の決定</p>

	児：修学旅行の役割分担に責任をもってやりたい。 先：決まったことをCPへ記入しましょう。	
終末 (希望を抱く) 10分	<p>4. 私にできる行動を考える (1) 行動目標をCPへ記入する (2) 設定した目標を交流し合う</p> <p>5. 自己評価や感想をCPへ記入する</p> <p>6. 教師からの励まし</p>	 <p>写真7 設定目標の交流</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 学校生活をよりよくすることを「決意」欄に記入する。 ■ CPに記入した情報をもとに、主体的に交流に参加している。 ■ CPに記入した情報をもとに、互いの目標を認め合ったり、新たに加えたり、修正したりする。

② 検証授業Ⅱの考察

検証授業Ⅰにおいて、自分自身の夢や将来に向けて自分から具体的に行動しようとする態度を育み、実践経験を積んだうえで検証授業Ⅱを行った。検証授業Ⅱでは、学級活動「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」内容「ア現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」について取り上げた。そこで、ねらいを「現在や将来のつながりに目標を持って、自己を生かそうとするとともに、私にできることを具体的に考えることができる。」と設定した。

図6は、検証授業Ⅱの板書である。導入では、事前アンケート項目②「自分にはよいところがある(3.32ポイント)」や⑤「仲間と協力して行動しようとしている(3.61ポイント)」、⑩「人の役に立つ人間になりたい(3.66ポイント)」の肯定的回答が高かったことを児童に伝え、そのよさを生かして自己実現を図るよう励ました。

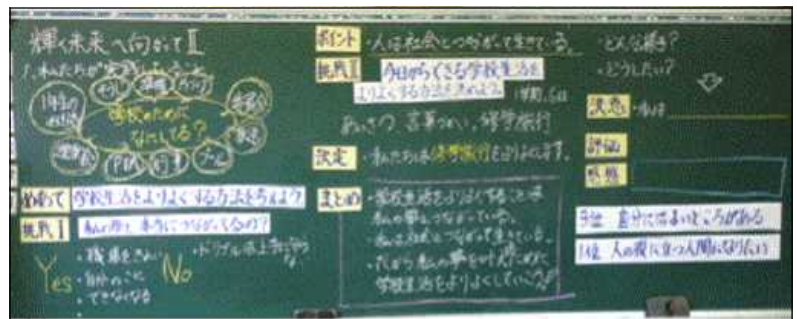


図6 検証授業Ⅱの板書

次に、本時までに入力してきたキャリアパスポートの内容を確認し、自分の夢と、夢を叶えるために具体的に取り組んでいる事を素早くキャリアパスポートに記入できるようにした。図7は、検証授業Ⅱで使用したキャリアパスポートである。

展開では、学校生活で今がんばっていることは、将来の夢を叶えることにつながるか、つながらないかの2択の討論を設定し、はじめに、「つながらない」という意見を取り上げ、後から「つながる」という意見を発表させるようにすることで、「つながらない」という意見を打ち消し、「つながる」、「だから、日常の学校生活をよりよくしよう」と発想するよう導いた。そのことが具体的な自己の目標を立てるこ

図7 検証授業Ⅱで使用したキャリアパスポート

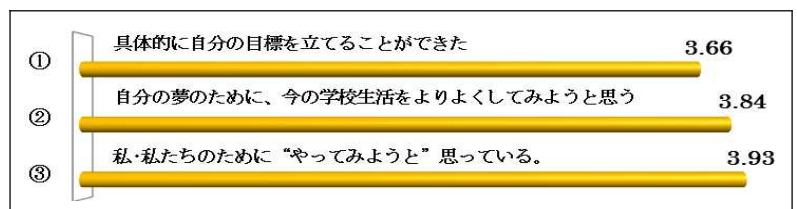


図8 検証授業Ⅱの自己評価の平均数値(4点満点)

そのことが具体的な自己の目標を立てるこ

とへとつながり、学校生活をよりよくするために③「私・私たちのために“やってみよう”と
 思っている」が、3.93ポイントとなり、ほぼ全員が、自己実現を図るための意欲へとつながったと
 考える。自己評価の集計は次の通りとなった(図8)。

(6) 検証授業Ⅱ後の事後指導

朝の時間に「吹き出し法」を用いて、児童が「自分にできること」を黒板に記入した(図9)。具
 体的に意志決定事項を記入できた要因とし、交流の場をすきま時間に設定したことや(図10)、家庭

においても持ち帰ったキャリアパスポートを用いて、学習したことを話したりするなどの交流の時間が持て



図9 吹き出し法を用いた児童による板書



図10 児童間のキャリアパスポートを媒体にした交流活動

VI 研究の成果と課題

1 事前・事後アンケートの考察より

表7は、事前・事後アンケートの結果である。本研究における一連のキャリアパスポートを用いた

学習を通して、⑰「特別活動の授業において学んだことを記録したり振り返ったりしていますか」の項目が2.62ポイントから3.27ポイントへ、⑱「特別活動の授業において学んだことを、友だち、先生、家族と話したりしていますか」の項目は2.65ポイントから3.18ポイントへと上昇

		事前	事後
人間関係形成 社会形成能力	① 学校は楽しいですか。	3.38	3.32
	② 自分には、よいところがあると思いますか。	3.30	3.32
	③ 友だちや家の人の意見を聞くと、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。	3.11	3.29
	④ 相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	3.52	3.32
自己理解 自己管理能力	⑤ 自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	3.61	3.51
	⑥ 自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。	3.16	3.32
	⑦ 気持ちが沈んでいるときや、あまりやる気が起きない物事に対しても、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。	3.13	3.32
	⑧ 不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	3.02	3.13
課題対応能力	⑨ 学校や学級のきまりを守っていますか。	3.22	3.29
	⑩ 分からないことやもっと知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。	2.72	3.16
	⑪ 何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。	3.38	3.37
	⑫ 何かをするとき、見直しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。	2.92	3.18
キャリアプラン ニング能力	⑬ 学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。	3.27	3.64
	⑭ 自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。	3.00	3.37
	⑮ 自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。	3.13	3.43
	⑯ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	3.66	3.89
4:当てはまる 3:どちらかといえ ば当てはまる 2:どちらかといえ ば当てはまらない 1:当てはまらない	⑰ 特別活動の授業において学んだことを、記録したり、振り返ったりしていますか。	2.62	3.27
	⑱ 特別活動の授業において学んだことを、友だち、先生、家族と話したりしていますか。	2.65	3.18
	⑲ 学級や学校でのよりよい生活づくりについて、主体的に判断することができますか。	2.88	3.27
	⑳ 現在や将来に希望や目標を持って、生活することができますか。	3.27	3.59

表7 事前・事後アンケートの項目と集計結果(4点満点「対象児童37名」)

がみられた。

授業や放課後などの時間を活用し、キャリアパスポートを用いて交流したことが、自己の生き方についての考えを深めることに有効であり、児童間、児童・教師間、そして家庭においても交流するツールとして効果的であったと考える。

図11は、表7をレーダーチャート図に表したものである。アンケート項目⑩の能力要素「学ぶこと・働くことの意義や役割、多様性の理解」が3.27から3.64ポイント。項目⑪「将来設計・選択」の能力が3から3.37ポイント。そして項目⑫「行動・改善」は3.11から3.43ポイントへと上昇した。この3つの項目はキャリア発達に関する「基礎的・汎用的能力」の「キャリアプランニング能力」(表8)に該当

する。また、アンケートでは、⑯「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目が3.66ポイントから3.89ポイントへ、⑳「現在や未来に希望や目標を持って、生活することができますか」の項目が3.27ポイントから3.59ポイントへと上昇していた。

このことから、学級活動(3)の指導において、ワークシート(キャリアパスポート)を作成し、ポートフォリオとして児童が活動を記録し、自身の活動を振り返ったり、蓄積した情報をもとに児童間、児童・教師間で交流することにより、学級や学校での生活づくりについて児童一人一人が主体的に判断することができるようになり、「人の役に立つ人間になりたい」や、「現在や未来に希望や目標を持って生活する」というような、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度が育ったと考える。

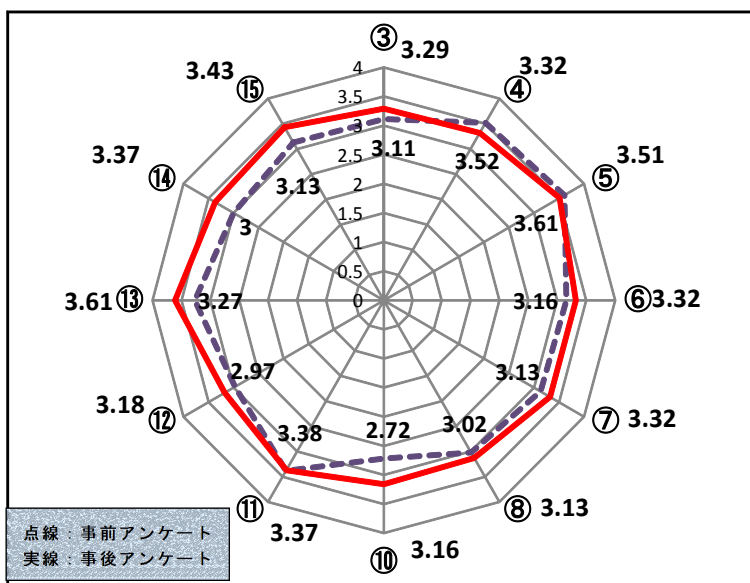


図11 キャリア発達「基礎的・汎用的能力」

キャリア教育アンケート項目⑩⑪⑫「キャリアプランニング能力」
 キャリアプランニング能力とは(「キャリア教育」資料集：平成29年5月)
 「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との
 関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々
 な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャ
 リアを形成していく力。

表8 キャリアプランニング能力の内容

2 成果

- (1) 学級活動(3)の指導において、ワークシート(キャリアパスポート)を作成し、ポートフォリオとして児童が活動を記録し、自身の活動を振り返ったり、蓄積した情報をもとに児童間、児童・教師間で交流したりすることにより、学級や学校での生活づくりについて児童一人一人が主体的に判断することができるようになり、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を育むことができた。
- (2) キャリアパスポートをひとつの学びの媒体として学習活動後も活用することにより、家庭においても学びの継続性や広がりがみられ、キャリア形成への素地を育むことができた。
- (3) 学級活動(3)の授業展開として「課題の把握」、「解決方法等の話し合い」、「個人目標の意志決定」の場面を設定し、「問い」を生起する問題解決の授業の中で、キャリアパスポートを活用したことは、児童が主体的に参加することに効果があった。

3 課題

- (1) キャリアパスポートに記入した、「決められたことの実践」や「振り返り」などの、学びの継続のための指導の工夫が必要である。
- (2) 総合的な学習の時間や学校行事、道徳科や各教科の学習、個別指導としての教育相談等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じてキャリア形成を図ることが必要である。

〈主な参考文献〉

文部科学省	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』	2018年
文部科学省	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』	2018年
国立教育施策研究所	『「キャリア教育」資料集 平成28年度版』	2017年
杉田 洋 編著	『小学校新学習指導要領ポイント総整理 特別活動』東洋館出版社	2017年
藤田 輝之 編著	『中学校 新学習指導要領の展開 特別活動編』 明治図書	2017年